

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第 23 期 151 号

# 会報



総主題「共にいてくださる主を信じて」  
副主題 信仰と、希望と、愛

2015. 10. 15

発行 日本福音ルーテル  
教会女性会連盟  
〒169-0072 東京都新宿区  
大久保 1-14-14  
発行者 芳賀 美江  
編集者 柳井 悦子  
印刷 平山印刷出版

## 主題聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節

### あなたへ



### 愛する姉妹たちへ

聖パウロ教会牧師 小勝奈保子

新しい役員の方々も決まり第23期女性会連盟の活動が始まりました。女性会連盟は2028年に100周年を迎えます。今年は87年目となりますが、12年前の『75周年記念誌』を読み返して「感謝献金一覧表」が目にとまりました。連盟の活動が休止となっていた時期があります。そこには「第二次世界大戦のため中断（1940年～1948年）」とありました。連盟が発足した当初から献金額は年々下がり続けています。156円90銭から58円65銭へ、8年の間におよそ三分の一へと落ち込みました。そして休止、その後再開されてからは、献金額は上昇し1985年をピークに、その後は上下しながら下降方向へ、昨年度は53万円代で1977年の頃と同額となっております。申し上げたいことは、女性会連盟の活動にも大きな変化の時期があるということですが、しかし、そうした状況の中で女性たちは、宣教、国内外の支援を続けて来ました。そして、87年の歴史の中で最も献金額の低かった年が、

どんなに貴い集いであったか、ということですが。今年は戦後70年の節目です。私たちが活動の灯を掲げる意義は、58円65銭をゼロにしない、平和への祈りと福音の証にあることを、改めて心に刻みたいと思います。今期の課題に「会長選挙」についての方法を考える」が取り上げられているように、連盟組織のあり方や活動について、今後も見直し変化が求められるかもしれません。しかし、消してはならない灯があります。それは女性どうしの絆と信徒運動体としての宣教の灯でありましょう。それが途絶えた過去がどんなに暗い時代であったかを思いますと、今こうして主のみ名によって集められていることの恵みを覚えます。それぞれの教会での集いが豊かに祝福されますように。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）、私たちは主によって召し集められた、そのことの上に立つ群れです。